

に にこにこ笑顔で

い いつもみんなで

つ 紡ぎ繋げる心で

に 日本一をめざすのだ

出会うべくして出会った君だから

<同窓会入会式に際し3年生へ贈る言葉>

とうとう来月3月4日は卒業式です。3年生と共に過ごす時間も残りわずかとなり、寂しい限りです。卒業式では全校合唱で盛大に見送りたいのはやまやまですが、アフターコロナの取組として、今年度も全校合唱は見送ることにしました。でも、3年生の卒業合唱は楽しみにしています。

さて、ひと昔前の卒業の歌の定番と言えば、「蛍の光」と「仰げば尊し」のどちらかで決まりでした。私が小中学校の頃もそうでした。どちらも明治半ば頃に入ってきた外国の曲で、音楽の教科書に掲載されて全国的に広がった曲です。どちらもいい歌ですよ。ただ、言葉が古めかしかったり、内容が教育的に不適切だとの指摘も出てきて、今では卒業式で聞くことはほとんどありません。

1980年代になると、音楽の合唱曲としても有名な「巣立ちの歌」や「大地讃頌」が卒業式で歌われることが多くなりました。この2つの曲もとてもいい曲です。でも、合唱曲は、「大地讃頌」など難しい曲も多いですし、ちょっと堅苦しいイメージがあるので、これらも次第に敬遠されるようになったような気がします。

そして、2000年代の定番に踊り出たのが「旅立ちの日に」です。この曲は、1991年に埼玉県の中学校の校長先生が作詞をし、音楽の先生が作曲をしました。当時荒れていた学校を立て直そうと、「歌声の響く学校」を目指して創られた曲でした。SMAP出演のCMソングに起用されたのをきっかけに全国で最も広く歌われる卒業式の歌となったのです。

その後、自分たちが歌う卒業ソングは自分たちで選ぼうと、特に有名な歌謡曲やポピュラーソングが歌われるようになります。

『YELL』『桜』『ありがとう』・・・等々。そして今年の卒業生はレミオロメン『3月9日』ですね。思い出や思い出は人それぞれで、誰しもがそれぞれの卒業ソングをお持ちでしょう。その全てが、皆さん一人一人の心の中では、かけがえのない名曲としてこれからもずっと生き続けるはずで

因みに、私にとっての一番の卒業ソングは、柏原芳恵の『春なのに』。「記念にくださいボタンを一つ」という歌詞は、そんなときめきの瞬間がなかった自分にとっては憧れのフレーズでした。

3年生とは、この新津第二中でたった2年間のお付き合いでしたが、真摯な態度で学校生活を送り、特にこの1年間全校を立派にリードしてくれた3年生の姿に、大いなる敬意を抱くとともに、そんな皆さんと出会えたことをたいへん誇らしく思っています。

学校の教師をしていると、卒業してからも教え子やその保護者・地域の皆さんと今でも連絡を取り合ったり、たまに合ったりすることも当然あります。

新型コロナウイルスが一段落した数年前に、頃合いを見計らって、以前私が学年主任をしていた学校の懇意にしていたお父さん連中数名と、いわゆる「オヤジの会」を実施し久しぶりに酒宴の席をともにしました。教え子である子どもたちの近況を酒のつまみに、とても懐かしいひとときを過ごしたのです。

宴が始まってすぐ、あるお父さんに「先生、うちの息子が今東京から帰省中なんですけど、このコロナ下で元気がないんで、ちょっと檄を飛ばしてください。」と頼まれました。

アルコールもOKな年齢になったので「じゃあ〇〇をここに呼んでください。」というので、電話をかけた父親に「先生に合わせる顔がない。」と言っているというのです。すぐさま私が代わって電話口に出て、「来ないなら、もうお前と一生縁を切るぞ。」と冗談めかして言うと、すぐさま母親に車で送られてやってきました。

確かに、明朗快活な中学校の頃の様子とは異なり、明らかに元気のない様子でした。いろいろ話を聞くと、一浪して猛勉強の末、第一志望の最難関の私立大学に合格して喜んで入学したものの、新型コロナウイルスの影響で、授業はオンラインでキャンパスに通うことも一切ままならず、サークルに入って友だちをたくさんつくって旅行もして、などと思い描いていた夢の大学生活とはかけ離れた日々悶々としているとのこと。1年時は、勉強にも全く身が入らずオンライン授業を受けずに留年。この2年目に期待していたが、あまり状況は変わらず・・・というようなことでした。

その場で、彼に具体的にどんな言葉を投げかけたか覚えていません。でも、横に座った彼の肩を抱き寄せながら、自分のありとあらゆる引き出しを開けて、硬軟織り交ぜて叱咤激励をしました。私にとっては強烈な“檄”のつもりが、彼にとっては単なる説教で、うざかったかもしれません。

その夜遅く、彼の父親からLINEが入りました。私とのやりとりが次の内容です。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

「先生、今日はありがとうございました。息子は、大学での2年間で『漂流』しているだけで、何も語れることも誇れることもない自分を先生には見せたくなかったのだと思います。でも、結果的には、先生から気合をかけられて、良い刺激を受けたのでは、と感じています。」

「こちらこそ、楽しいひとときをありがとうございました。いやいや、漂流している人生も別に悪くないですよ。人生に無駄なことは何一つもないわけですから。『有』を生み出すには、長くて苦しい『無』の時間も時として必要です。」

自分の誇れることを周囲に高らかに語れる人間になることより、何も語らずとも、知人や友人にニコニコしながら酒をつける人間が私は好きです。

教え子には、金持ちとか有名人になることや人生の勝ち組と呼ばれる人間になってほしいとは望んでいません。金メダルやノーベル賞を獲ることよりももっと大切なことはあるはずですから。

まあ個人的には、『みんなで集まってワイワイやっているから、今から来い』と言った時に、どんな立場や状況でも喜んで駆けつけてくれる、そんな人間になってほしいと思います。(笑)。私が愛してやまない〇〇に、いつまでもエールを送っているからと、くれぐれも宜しくお伝えください。」

「ありがとうございました！このままそっくり伝えます。」

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

結局、彼は大学を中退しました。人によっては、超一流大学なのに何ともったいないことを、と思うかもしれませんが。私は決してそう思いません。大多数の人間が選択をしないであろう道をあえて進もうと決意した、極めて勇気ある決断だと評価しています。

今なお、新たな自分の進むべき道を模索しもがき苦しみ漂流している彼は、確実に必死に生きています。これからもエールを送り続けようと思います。

今彼に言葉をかけるとしたらこう言います。『先生、一緒に飲みませんか』。そう誘ってくれる日を待っているよ。いざ鎌倉の折には、俺は地球の裏側にいようといつでも駆けつけるからな」と。

どのような道を選択しようとも、どのような人生を歩もうとも、彼にも、そして卒業していく君たちにも、決して忘れないで肝に銘じていてほしいことがあります。

人と人は偶然に出会うものでなく、出会うべくして出会う運命の存在だと。家族や学校の仲間も含めて、これまで出会ったすべての人間をいつまでも大切にするように。

そして、これから出会うべくして出会う人間と、縦と横の糸をしっかりと紡いでかけがえのない絆を創り上げて行ってほしいと。私が望むのは、この一点のみです。

卒業したら、私自身とも二度と会わない人の方が多いかもしれません。

でも、将来みんなが成人して、年金生活の私と街でバッタリ顔を合わせることがあって、まだお互いのことを覚えていたならば、これも何かの運命的な偶然の再会。ぜひとも一杯飲みたいもんですね。もちろん、現役世代の君のおごりでね。(笑)

3年生の皆さん、心から『卒業おめでとう』。人生『立って半畳寝て一畳』、肩ひじ張らずとも日々粛々と黙々と、ひたすらひたむきに笑顔で生きていくように。それじゃ、あと4日間よろしく。